

日本線虫学会ニュース

Japan Nematology News

目次

国際線虫学会の招致に向けて(二井一禎)	1
日本線虫学会第12回大会のお知らせ	2
事務局から	5
記事	
第27回ヨーロッパ線虫学会に参加して(岩堀英晶)	5

国際線虫学会の招致に向けて

二井一禎(京都大学)

現在、6年に一度開催される国際線虫学会の第5回大会を日本で開催するよう準備委員会が活動中である。これは、国際線虫学会連合(IFNS)が世界各国の線虫学会に開催の意志を問いかけたのに対して、わが日本線虫学会も招致の手をあげようという準備である。今後、準備委員会の中で適当な会議場が選定され、予算やマンパワーなどに関して開催の目処が立てば、評議委員会の議に付される。そこで開催と言うことに決まればIFNSに対し、正式に開催の意志ありと手を挙げることになる。IFNSではそのような開催候補国の中から、提示された開催条件を比較して、第5回大会の開催地を決定するという段取りである。このように日本開催にこぎつけるにはまだまだ幾つものハードルを越えねばならない。

どうして、そんなに苦勞をしてまで国際線虫学会を日本に招致しなければならないのか。例えば遠くなるが、この話、どこか

ワールドカップ・サッカーの日本開催に心血を注いだ日本サッカー協会(JFA)の姿と重なるところがある。ワールドカップ・サッカーの場合、開催には多大の費用を要するが、それ以上の経済効果もあるようだし、国威発揚にもつながるのであるから事情は全然違ふと反論されるかもしれない。しかし、JFAも本来は経済効果をねらって日本でのワールドカップ開催に尽力したわけではあるまい。日本人サッカー選手の競技レベルの向上を目指すために、JFAは各国で開催されるワールドカップ・サッカー大会に日本人選手を盛んに送り込んできた。日本としてもそろそろ大会を主催しても良いのではないかと言う雰囲気は国の内外から醸し出されてきたのだろう。そして、日本でワールドカップを開催すればなんと云っても日本のスポーツ選手達に有形、無形の励ましを与えることになるという了解がJFA内部にあったに違いない。一流のサッカー選手であるには世界を舞台に競わなくてはならない。そんな努力をする日本人選手をJFAは労を惜しまず後押しすると内外

に宣言することになった。

ひるがえって、日本線虫学会の立場も良く似たものであろう。国際舞台での活躍を目指す若い研究者を応援するのに**異論はないはずだ**。研究者の世界はスポーツの世界以上に国際性を問われ、その中での競争を強いられる世界に違いないから、学会自体が国際舞台で活動していることこそがその舞台の上で活躍すべき研究者への励ましになるはずだ。そのためには十分な準備をして、次の機会を目指す必要があるのかもしれない。しかし、呼びかけに対してタイミング良く前向きの姿勢を示さなければいつまでも次の機会はやってこないであろう。徒労は覚悟で国際線虫学会招致を目指す。これが準備委員会の基本姿勢だ。期限まであと3週間、酷暑と厳しいスケジュールの中で繰り返し広げられる、この委員会の努力が実を結ぶことを皆さんも応援して下さい。

日本線虫学会大会第12回大会 のお知らせ

大会事務局

会 期：2004年9月2日（木）
～ 9月3日（金）

会 場

大 会：福島テルサ 3F 大会議室
あぶくま
福島県福島市上町 4-25
TEL：0155-22-7890
FAX：024-523-4115

懇親会：福島テルサ 3F 会議室
あづま
TEL：0155-24-1234

日 程： 9月2日（木）
13:00～14:15 総会

14:45～17:00 一般講演

18:00～20:00 懇親会

9月3日（金）

9:30～12:00 一般講演

13:00～16:30 一般講演

大会事務局：（独）農業・生物系特定産
業技術研究機構

中央農業総合研究センター
虫害防除部 線虫害研究室
水久保隆之

〒305-8666

つくば市観音台 3-1-1

TEL：029-838-8839

FAX：029-838-8839

E-mail：mizu@affrc.go.jp

[発表者の方へのお知らせ]

一般講演の講演時間は、1 課題当たり
15分（予鈴10分、2 鈴12分、終鈴
15分）です。講演者多数のため、時間厳守をお願いします。

PC プロジェクター利用の方は、なるべく初日の早い時間（総会終了後の休憩時間をご利用下さい）に受付に記録メディア（CDRのみ受付）をお渡し下さい。PCの操作担当者を配置しません。ファイルはいったんハードディスクにコピーしますが、大会終了後にすべて消去します。講演終了後にメディアは返却します。

PC プロジェクター利用の場合、ファイル名をあらかじめ講演番号+演者名（例：219mizukubo）で保存しておいて下さい。講演を円滑に進行させるため、ご協力宜しくをお願いします。

OHP シートの交換は各自行って下さい。操作助手が必要な方は受付時にお申し

出下さい。

本大会の講演要旨は、日本線虫学会誌第34巻2号に登載する予定となっております。講演予稿の修正が必要な場合は、9月末日までに下記にて修正した講演要旨原稿をお送り下さい。修正原稿では修正箇所が判るように示すか、大幅な修正がある場合などなるべく、講演要旨のファイルをメールあるいはフロッピーディスクで送付して下さい。

森林総合研究所 微生物研究領域内
日本線虫学会誌編集事務局

小倉信夫

〒305-8687

茨城県つくば市松の里1番地

TEL : 029-873-3211 (内線
407, 429)

FAX : 029-873-1543

E-mail : nogura@ffpri.affrc.go.jp

講演プログラム

(は発表者)

9月2日(木)

13:00~14:15 総会

(14:15~14:45 休憩, 映写器材準備)

[一般講演] 14:45~17:00

(座長 岡田浩明)

14:45 101 乙部和紀・伊藤賢治*・水久保隆之(中央農研・*北農研) 細孔ネットワーク空間における線虫の水流に対する応答。

15:00 102 石橋信義・高山幸子・近藤栄造(佐賀大農) 菌食性線虫 *Aphelenchus avenae* の繁殖と菌糸摂食行動。

15:15 103 真宮靖治(元玉川大) 数種木材腐朽菌によるマツノザイセンチュウの誘引と捕食。

15:30 104 小倉信夫(森林総研) 家庭園芸用各種殺虫剤のマツノザイセンチュウに対する殺線虫効果。

(15:45~16:00 休憩)

(座長 相川拓也)

16:00 105 竹本周平*・神崎菜摘*
・二井一禎*(*京大院農・現 鹿大農) マツノザイセンチュウ強弱両系統を母系統とする混合集団のクロマツへの接種試験。

16:15 106 神崎菜摘**・二井一禎*
(*京大院農・**現 鹿大農) 京都御所のクロマツ枯死木より分離された *Bursaphelenchus* 属線虫。

16:30 107 長谷川浩一*・**・二井一禎**・三輪さつき*・三輪錠司*・***(*中部大生物機能開発研・**京大院農・***中部大応用生物) マツノザイセンチュウの体軸決定について。

16:45 108 長谷川浩一***・三輪さつき*・堤内 要*・***・谷口 肇*・***・三輪錠司*・***(*中部大生物機能開発研・**京大院農・***中部大応用生物) アクリルアミドによる *Caenorhabditis elegans* 寿命の二相性反応。

18:00~20:00 懇親会

9月3日(金)

〔一般講演〕 9:30～16:15

(座長 小坂 肇)

9:30 201 吉田睦浩(中央農研) メス成虫形態形質による日本産 *Steinernema* 属昆虫病原性線虫の類別.

9:45 202 鎌田龍星・吉賀豊司・近藤栄造(佐賀大農) *Heterorhabditis indica* の発育に必須な共生細菌 *Photorhabdus luminescens* 遺伝子の同定.

10:00 203 吉賀豊司・近藤栄造(佐賀大農) *Steinernema carpocapsae* の発育に及ぼす脂質の影響.

(座長 神崎菜摘)

10:15 204 重松 学・鎌田龍星・吉田睦浩*・吉賀豊司・近藤栄造(佐賀大農・*中央農研) 日本産 *Steinernema* 属線虫および共生細菌の系統関係.

10:30 205 植原健人・串田篤彦・伊藤賢治・奈良部 孝・百田洋二*(北農研・*中央農研) シストセンチュウ (*Globodera* 属) のリボゾーム DNA ITS 領域の比較.

10:45 206 岩堀英晶・水久保隆之*・立石 靖・佐野善一(九沖農研・*中央農研) 寄生性の異なる2系統ミナミネグサレセンチュウの九州沖縄地域における地理的分布と遺伝的差異.

(11:00～11:15 休憩)

(座長 串田篤彦)

11:15 207 相場 聡(中央農研) インドネシアにおけるジャガイモシストセンチュウの発生.

11:30 208 清水 啓(福島市) 市販野菜苗の線虫汚染事例.

11:45 209 中園和年・木拉提*・沙吾

列提**・上田憲一(緑資機・*アラハク郷農技部・**八バカ農普所) 中国アルタイ地域の固定砂漠および既耕地における植物寄生性線虫.

(12:00～13:00 休憩 昼食)

(座長 岩堀英晶)

13:00 210 荒城雅昭(農環研) 不耕起・堆肥連用圃場の土壌線虫の多様性(第8報) 細菌食性線虫の属レベルのリスト.

13:15 211 岡田浩明・原田啓基*・門田育生** (農環研・*流山市・**東北農研) 栽培管理の違いが土壌線虫群集の構造におよぼす影響.

(座長 北上 達)

13:30 212 山田英一・佐久間 太・橋爪 健・高橋 穣(雪印種苗株北海道研究農場) アズキ落葉病菌のアズキ感染に及ぼすキタネグサレセンチュウの影響.

13:45 213 奈良部 孝・串田篤彦(北農研) キタネグサレセンチュウ密度回復を回避するための効果的な対抗植物栽培法の検討.

14:00 214 持田秀之・立石 靖・佐野善一・岩堀英晶(九沖農研) 有機栽培圃場における矮性クロタラリア (*Crotalaria breviflora*) の線虫密度抑制効果と後作ニンジンの線虫害に与える影響.

(座長 相場 聡)

14:15 215 串田篤彦・植原健人・百田洋二*(北農研・*中央農研) 施肥量・種いもサイズ・殺線虫剤畝施用がジャガイモシストセンチュウ畑でのバレイ

シヨ収量に及ぼす影響．

- 14:30 216 福澤晃夫・鳥居悠介・仲平 敦・田中大介・串田篤彦*（道東海大工・*北農研） トマト根浸出物の土壌内ジャガイモシストセンチュウに対する密度低減効果．

（休憩 14:45～15:00）

（座長 吉賀豊司）

- 15:00 217 百田洋二・野津光雄・蔵之内利和*（中央農研・*作物研） サツマイモの線虫検定圃場におけるネコブセンチュウの動態．
- 15:15 218 片瀬雅彦・牛尾進吾・久保周子（千葉農総研） フスマを用いた土壌還元における酢酸の生成と線虫への影響．
- 15:30 219 水久保隆之・竹原利明・相場 聡・伊藤賢治*（中央農研・*北農研） 微生物資材と植穴くん蒸の組み合わせ処理がトマトのサツマイモネコブセンチュウの動態と作況に及ぼす影響（第4，5，6作）．

（座長 奈良部 孝）

- 15:45 220 下元満喜（高知農技セ）
Pasteuria penetrans によるメロン・キュウリのネコブセンチュウ防除．
- 16:00 221 北上 達・西野 実（三重科技振興セ農） パスツリア菌孢子へのメチオニン前処理がサツマイモネコブセンチュウに対する孢子付着に及ぼす影響．
- 16:15 222 ガスパード ジェロム（有ネマテンケン） 線虫卵に寄生する糸状菌の大量土壌分析法．

【事務局から】

本学会ニュースの編集責任者は8月16日をもって佐野善一編集委員から岩堀英晶編集委員に交替します。これは、佐野善一編集委員が6月1日の人事異動により、九州沖縄農研から国際農業研究センターに配置換えとなり、8月16日からパラグアイ国に長期出張するための緊急措置です。宜しくご了承下さい。佐野さんのご苦勞をねぎらいたいと思います。ご苦勞様でした。

【記 事】

第27回ヨーロッパ線虫学会に参加して
岩堀英晶（九州沖縄農研）

2004年6月13日から6月18日まで、ローマにて第27回ヨーロッパ線虫学会（ESN）が開催されました。日本からの参加者は、京都大学から二井先生、神崎君、院生の竹内さん、竹本君、長谷川君、佐賀大学から吉賀先生、院生の鍬田君、中央農研から水久保さんと吉田さん、岐阜県立森林文化アカデミーから津田君、そして私の11名でした。参加者のほとんどはヨーロッパの研究者のようでした。アジアからの参加者は我々以外ほとんどおらず、インドの方が何人かおられた程度でした。

レオナルド・ダ・ビンチ・フィウミチーノ空港からローマ市内までは列車で約30分、終点のテルミニ駅はとても大きく、重い荷物を担いで長いホームを歩き、ホテルまでたどり着くのに皆さん苦勞されたようです。ホテルは異常とも言えるほど料金が高く、とても日本では通用しないような、狭い部屋、狭いベッド、シャワーのみ、エアコンなしのシングルが、1泊70ユーロ（約9,400円）もしました。それでも神崎君に手配してもらった格安のホテルで、学会の斡旋するホテルはその倍もするような

ところでした。

学会会場はホテルから徒歩で15分くらいで、Consiglio Nazionale delle Ricerche (CNR)の地下にありました。メイン会場は広くて立派だったのですが、サブ会場はかなり狭く、しかも場所が分かりにくいところにあつたため、初めは迷ってうろろしている参加者もかなりいました(我々含む)。コーヒープレイクの部屋も参加者数に比して狭かつたため、ラッシュアワーのような混雑でした。食べ物や飲み物をもらうのにも辛抱強く列ばなければなりません。長い行列でもおとなしく待つのは日本人の専売特許と思っていたので、妙に感じしました。

しかし色々な不平不満もどこへやら、学会が始まると皆熱心に聞き入り、最新の情報を子細漏らさず吸収してやろうという気迫が伝わってきました。私自身は主に分子生物学的手法に関するシンポジウムに参加し、この分野では著名なアメリカのWilliamsonさんやイギリスのBlokさんなどの話が聞け、とても刺激されました。休憩時間にBlokさんとお話をしましたが、とても気さくな人でした。「日本には線虫研究者が何人いるのか」とか、私がサツマイモにつく線虫を調べていると言うと、「サツマイモはどうやって食べるのか」と尋ねられました。オランダのJanssenさんは非常に日本について詳しく、これは以前日本からの留学生が彼の研究室に来ていたかららしいのですが、日本政府の保守性についてもよく知っており、「研究者もそんなのか」と聞かれたりしました。後日Janssenさんから来たメールは「Dear Hideaki-san」と始まっていました。

今回の学会で私が一番の目的としていたのが、植物寄生性線虫のRNAiについてど

こまで研究が進んでいるかを情報収集することでした。RNAiとは二本鎖RNAによる遺伝子の発現抑制作用で、*C. elegans*で初めて明らかにされたものです。この作用を利用して線虫抵抗性を植物に付与するプロジェクトを、中部大学の三輪先生を中心に、二井先生と私が立ち上げ、競争的資金獲得のため二度ほどトライしたのですが落とされ、研究が滞っていたので非常に気になっていました。講演ではRNAi研究の先鞭を切っていたイギリスのUrwinさんの話まではよかったのですが、案の定研究はかなり進んでおり、ベルギーのGheysenさんの話は、ほとんど我々がやろうとしていたことそのままでしたのでかなりショックでした。日本の線虫学がまた立ち遅れてしまったような暗澹とした気分になりました。

ポスター発表は、これまた会場の場所が分かりにくく、メイン会場から歩いて5分ほど離れたところにありました。しかし会場では狭い場所にぎっしりと人が集まり、皆熱心に発表者に説明を聞いていました。とりわけ日本の院生諸君が若いパワーで世界を相手に、積極的に自分を売り込んでいる姿が非常に印象的でした。

今回の学会の内容は、線虫別ではやはり植物寄生性線虫に関するものが中心で、3/4近くありました。また内容別では防除に関するものが約1/3と最も多かつたのですが、分子生物学的な内容が日本の大会に比して多く、1/4近くありました(口頭発表について鍬田君調べによる)。また特に目につきましたのが女性研究者(しかも優秀な)の多さでした。線虫学は根気のある仕事であり、また分子生物学的な仕事も今後ますます必要性が高まると考えられ、女性に向いているような気がします。日本の線虫学の発展にとって、優秀な女性研究者

を発掘し養成することが急務と感じました。このあたり、大学関係の方々をお願いしたいところです。

最終日前夜に催された Social Dinner は、ローマ郊外の洒落た別荘風の建物で行われました。「Social だから」と思って皆さん正装して行ったのですが、背広を着ていたのは事務局関係者と日本人くらいでした。しかし食後のセレモニーで大きな出来事がありました。長谷川君が「最優秀学生ポスター賞 (Outstanding Student Poster Award)」を受賞したのです。長谷川君の名前が呼ばれた時、授賞式が一方で行われているにもかかわらず、彼は呑気にコーヒーを取りに行き帰ってくる所でした。「早く、早く！」と皆から声をかけられ、彼は慌てて授賞式の人垣の輪の中に駆け入り、万雷の拍手の中、ESN 会長から直々に受賞の盾を受け取りました。彼は盾を見ながら、「本当にここに書かれているのは僕の名前なのか？」と、あまりの喜びに半信半疑の様子でした。今回の学会を振り返ってみますと、彼のみならず、他の若手諸君の活躍も素晴らしいものでした。日本の線虫学の将来は明るいという気分になりました。

近年国際的な学会への日本人の参加者が増えるにつれ、逆に日本への国際的な要請も高まってきました。このような要請に応えるべく、2008 年開催予定の次回国際線虫学会の、日本開催の可能性について検討が始まっています。他のいくつかの国も立候補を表明している中で、マンパワーや経費的な問題から、日本が立候補できるのかどうか、現時点ではまだ結論は出ていませんが、何らかの形で日本線虫学会が国際的な貢献をしてゆかなくてはならないのでは

ないかと考えています。

さて、最後に少しだけ観光の話をしませんが、ローマはこの季節、午後 9 時を過ぎても明るいので、皆さん講演終了後観光にいそしんでいたようです。会場から歩いて行けるところにコロッセオ、トレビの泉、スペイン広場などがあり、地下鉄ですぐバチカン市国のサン・ピエトロ寺院へ行きました。日々の食事は、パスタとサンドイッチ、デザートに歩きながらジェラート、夜はビールとワインとグラッパ (イタリアの強いお酒) に明け暮れた毎日でした。学会も、そして学会以外の時間も、とても満足できた素晴らしい学会参加でした。参加された皆様、本当にお疲れさまでした。



最優秀学生ポスター賞を受賞し、喜びにあふれる長谷川君

【編集後記】

福島大会が目前、今号も例年同様大会プログラムが中心の編集となりました。その上、巻頭言も国際学会関連、会員からの投稿もヨーロッパ線虫学会の報告ですから、まさに大会一色の感があります。しかし、内容はいずれも展望があります。私事になりますが、九沖農研から国際農研へ異動して2ヶ月、海外での研究準備という落ち着かない時間を過ごして来ましたが、8月16日にパラグアイへ出発します。日本線虫学会の活気をもらいながら、地球の裏側で活発な線虫研究を立ち上げたいと考えております。ご協力をお願いいたします。

(佐野善一)

うだるような暑さが続いていますね。ここ十勝もご多分に漏れず連日30以上と、北海道にいるのに何か損をしている様な日々となっています。

8月のこの時期、北海道ではダイズシストセンチュウによる大豆の地上部被害が顕在化してくる時期でもあります。ドライブをしていますと、まだ収穫には間があるはずなのに黄色く色づいた畑がそこかしこに見られます。そんな畑に出会いますと、「おーきれいいに出ている！」と、農業王国「十勝」では口に出すことをはばかれるフレーズを口走っている自分に気づき、自戒の念を強くしております。さてさて、もう少し大人にならなければ、ここから追い出されてしまうかもしれませんね。

(串田篤彦)

2004年8月12日

日本線虫学会

ニュース編集小委員会発行

編集責任者 佐野 善一

(ニュース編集小委員会)

(独)国際農林水産業研究センター
生産環境部

〒305-8686

茨城県つくば市大わし1-1

TEL・FAX: 029-838-6362

E-mail: sanoz@affrc.go.jp

日本線虫学会ニュース第33号

ニュース編集小委員会

佐野 善一(国際農研)

串田 篤彦(北農研)

入会申し込み等学会に関するお問い合わせは、学会事務局：農業・生物系特定産業技術研究機構中央農業総合研究センター線虫害研究室室内まで

〒305-8666


茨城県つくば市観音台3-1-1

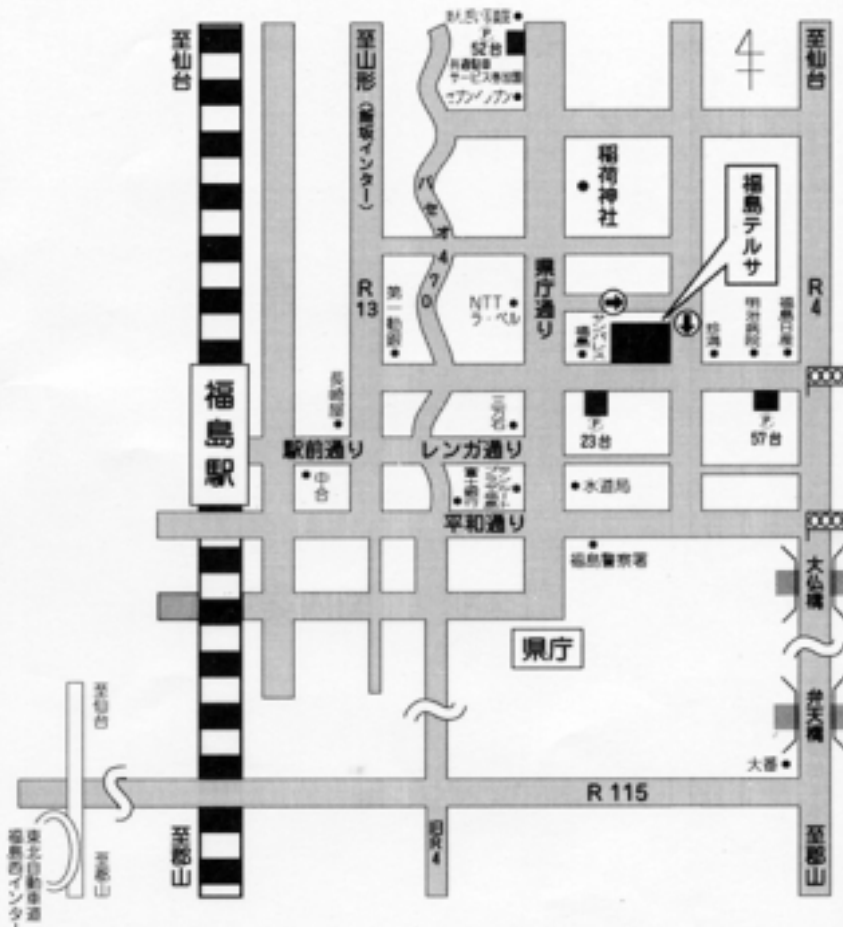
TEL: 029-838-8839

FAX: 029-838-8837

E-mail: aiba@affrc.go.jp

福島テルサ案内図


福島テルサ 〒960-8121 福島市上町4-25
 TEL (024) 521-1500
 FAX (024) 523-4115



交通のご案内

- 福島駅より徒歩 10分
- 福島西 I.C. より車で 20分
- 福島飯坂 I.C. より車で 15分

駐車場のご案内

① 福島テルサ駐車場 24時間営業

福島テルサ (レストラン・健康クラブを含む) ご利用の方は、2時間無料となります。1F受付または5Fフロントに駐車券をご提示下さい。

ご利用料金 …… 30分あたり 100円